

令和6年ホヤ類調査結果速報 No. 5

令和6年10月29日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

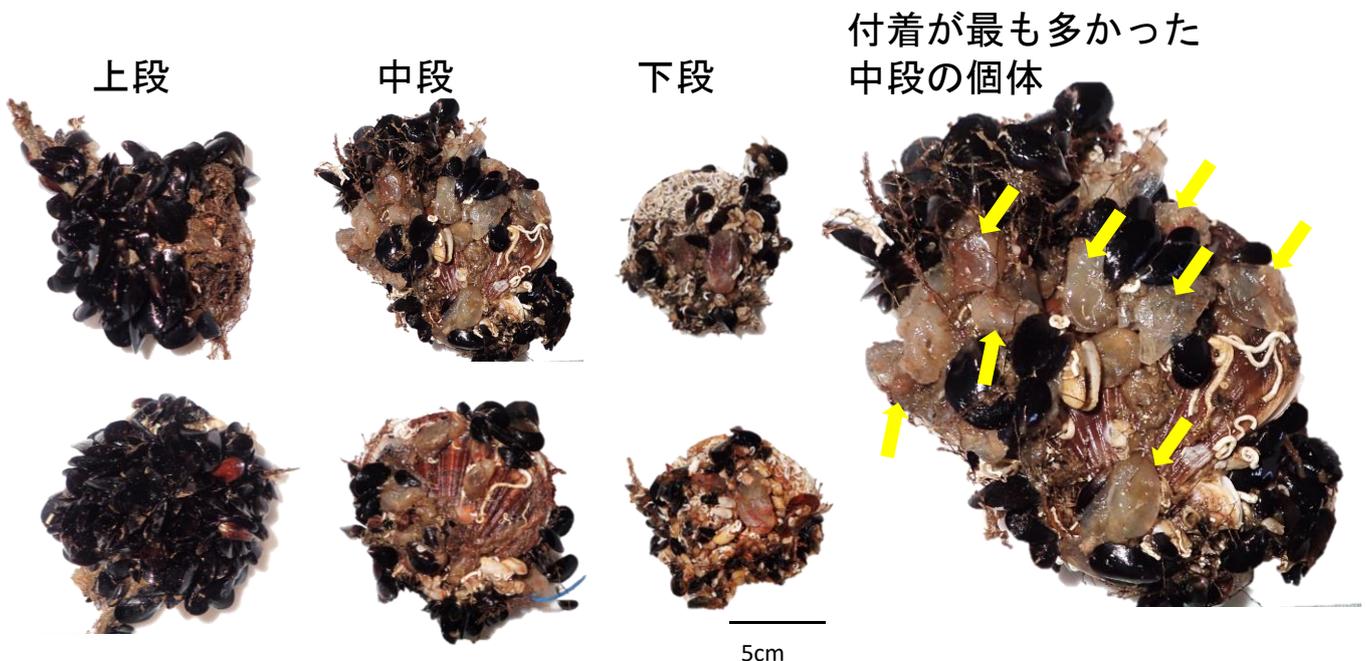
10月25日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

※「平年」とは「過去10ヶ年平均」を表します。

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は9月から減少しました。
- ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数および平均付着重量は昨年並であり、平年の1～2割程度と低水準でした。
- ヨーロッパザラボヤは平年よりも小型で、9月からほぼ成長していません。
- その他付着物（主にイガイ類）の付着が多く、耳吊り貝の成長への悪影響が懸念されます。また、ヨーロッパザラボヤの付着状況も場所などによりバラツキがあると思われます。状況に応じて貝洗い等の対応を進めてください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和6年10月25日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和6年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：10月25日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、付着物を調査しました。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり6.1個体（過去10ヶ年の平均31.6個体）、平均付着重量は同7.3g（同63.3g）でした。付着数は前回調査（12.5個体）から減少しました。また、平均サイズは21.1mm（過去10ヶ年の平均24.4mm）と平年よりも小さかったです（図2）。また、サイズ組成は前回調査とほぼ変わらず、成長が鈍い様子です（図2）。

養殖海域の水温は20℃を下回っており、殻の縁辺部に新たな殻が形成されている個体も確認でき、ホタテガイの体力は回復してきていると思われます。ヨーロッパザラボヤの付着はR5年と同様に低水準ですが（図3）、その他付着物重量は70.5g（主にイガイ類）とR5年（40.5g）を大きく上回っており、ホタテガイの成長に悪影響が生じる恐れがあります。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和6年10月25日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	119.8g	77.2g	36.3g	77.8g
ヨーロッパザラボヤ	2.9g	14.8g	4.2g	7.3g
その他	116.9g	62.4g	32.1g	70.5g
ヨーロッパザラボヤ個体数	3.0個体	13.4個体	1.8個体	6.1個体
令和5年10月（R5.10.11）の個体数	4.2個体	4.0個体	4.0個体	4.1個体
令和4年10月（R4.10.13）の個体数	21.8個体	23.0個体	28.2個体	24.3個体
令和3年10月（R3.10.12）の個体数	5.6個体	12.4個体	15.2個体	11.1個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和6年6～10月）

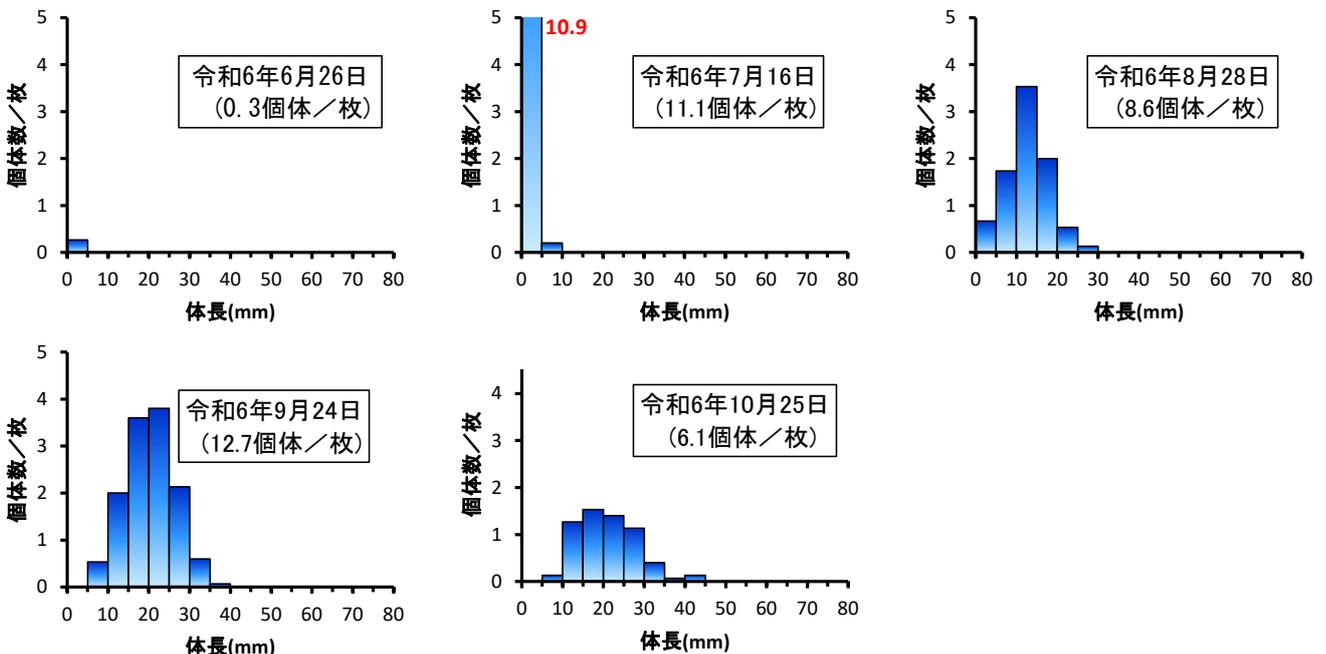
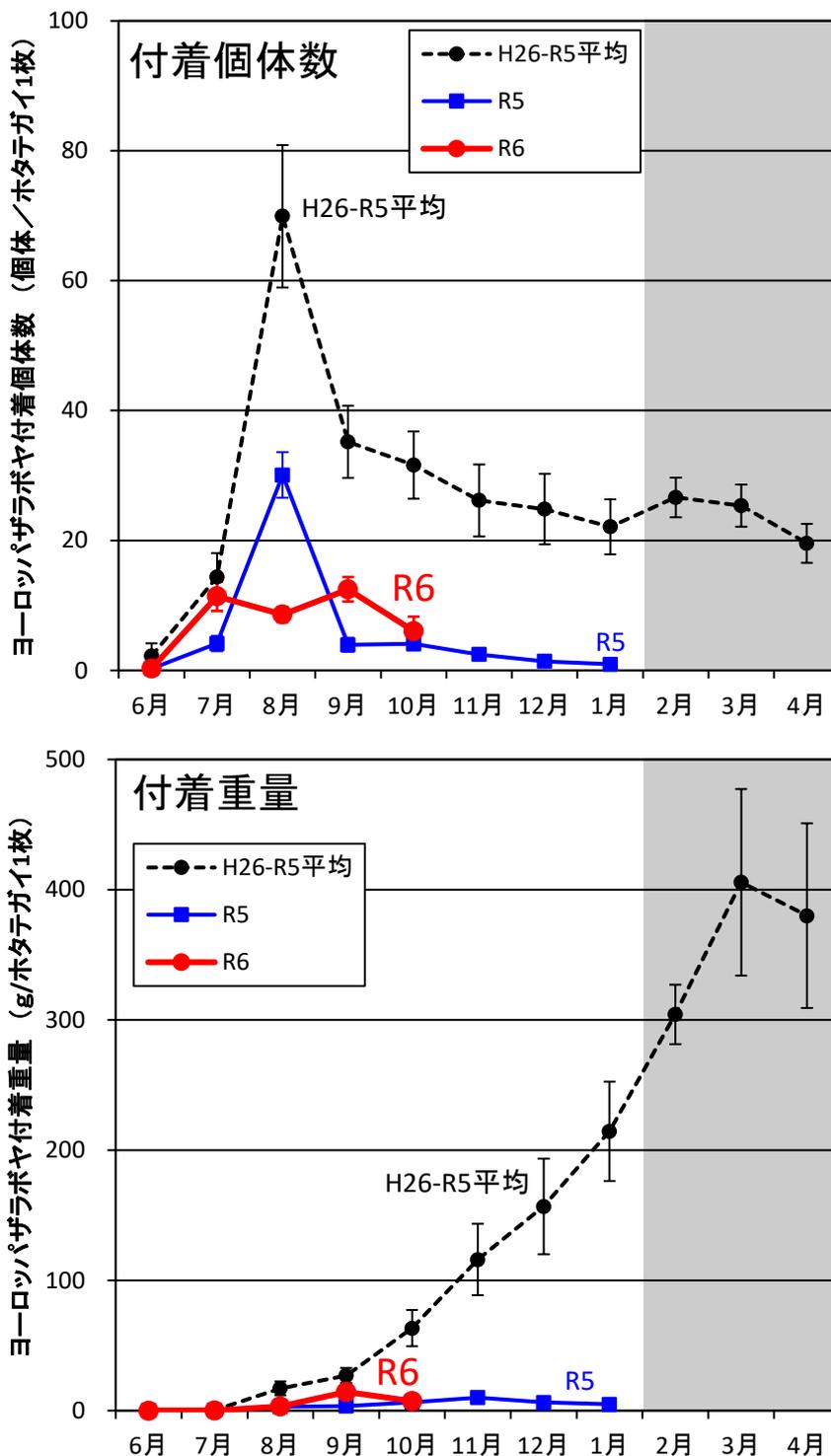


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

※影をつけた2-4月はR2年以降調査未実施のため、H22-R1の平均を示す

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去10ヶ年（H26～R5年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着個体数は7～8月に大きく増加し、8～9月に大きく減少した後、10月以降は緩やかに減少します。付着重量は10月以降、急激に増加します。